

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「情報のとびら：原因と結果」 教材名「情報のとびら：原因と結果」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、原因と結果などの関係を、確かめた情報を基に整理する。思考・判断・表現では、身近な事柄の説明を読み、根拠を確かめて因果関係が伝わる段落に直す。交流や試行の前後を比べ、原因と結果を整理した段落を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①原因と結果などの関係を、確かめた情報を基に整理している。（〔知識及び技能〕(2)ア）	①「書くこと」において、身近な事柄の説明を読み、根拠を確かめて因果関係が伝わる段落に直している。（B(1)イ）	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

この単元では、原因と結果の関係を中心に学ぶ。身近な事柄の説明を読み、根拠を確かめて因果関係が伝わる段落に直す活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(2)アとB(1)イに関係する学習である。成果は、原因と結果を整理した段落に示した判断と理由から捉える。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

予想される難しさは、先に起きたことを全て原因とすることである。確認できた根拠と推測を分け、断定できない点を残す。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○身近な事柄の説明を読み、根拠を確かめて因果関係が伝わる段落に直す。 ○考えた理由を交流し、原因と結果を整理した段落を仕上げる。	知①・思①（学習記録）／態① は関連する学習の記録も合わせて見る。



6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

身近な事柄の説明を読み、根拠を確かめて因果関係が伝わる段落に直すことができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 身近な経験と既習の言葉を確認、今日使う教材や資料を準備する。 ○「結果の理由として本当に言えることは何か」 【めあて】原因と結果の関係について、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・順番だけでは原因だと言い切れない。 ・どこを確かめれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例を見える所へ置く。先に起きたことを全て原因とする姿が見られても、すぐに訂正せず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 身近な事柄の説明を読み、根拠を確かめて因果関係が伝わる段落に直す。 3 書いたものを読み返し、「結果の理由として本当に言えることは何か」を観点に、友達へ伝わりにくい箇所を確かめる。 4 必要な語句や構成を直し、直す前後と理由を残す。 〈予想される児童の反応〉 ・順番だけでは原因だと言い切れない。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	確認できた根拠と推測を分け、断定できない点を残す。知識・技能では、原因と結果などの関係を、確かめた情報を基に整理している。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選ぶようにする。 ◎①身近な事柄の説明を読み、根拠を確かめて因果関係が伝わる段落に直している。(B(1)イ) (初稿・見直した稿・修正理由)
まとめ (分)	5 原因と結果を整理した段落を確認、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】先に起きたという順序だけでは原因と言えない。確かめた根拠と推測を分け、原因と結果の関係が伝わるように書く。 6 最初から変えた点、理由を確かめて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。結果の理由として本当に言えることは何かへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①(原因と結果を整理した段落と実際の言葉の使用)・態①(単元を通した試行や見直し)

(3) 本時の評価

おおむね満足できる状況は、身近な事柄の説明を読み、根拠を確かめて因果関係が伝わる段落に直している姿である。初稿・見直した稿・修正理由を基に判断する。先に起きたことを全て原因とする場合は、確認できた根拠と推測を分け、断定できない点を残す。読み書きの速さや発表の回数ではなく、本

時の目標に関わる言葉の使い方と判断を捉える。

(4) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には原因と結果の関係を確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に原因と結果を整理した段落で残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後に使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

